



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2022年2月10日 No.403

さらに強化しよう団結の力を！

さらに拡大しよう団結の絆を！

第9回中央委員会を開催

2022春闘要求を確認

- ★「定期昇給」と「昇給係数4」の実施！
- ★「第二基本給」の廃止！
- ★「特別加給」を行わないこと！

私たち東日本ユニオンは2月9日、東京都「田町交通ビル・大ホール」において、出席者全員の検温と消毒の徹底、会場内におけるソーシャルディスタンスの確保など、万全な新型コロナウイルス感染予防対策のもと「第9回中央委員会」を開催しました。

全12地方本部12名の中央委員から「賃金・手当の取り組み」や「会社施策に対する取り組み」などを通じて、組織強化・拡大を勝ちとってきたとする発言によって提起した方針が補強されました。

2022春闘方針をはじめ、組織強化・拡大、労働条件の維持、改善、向上にむけた取り組みなどの活動方針を満場一致で確立しました。

**2022春闘の勝利に向けて
全組合員が決起する！**

委員会宣言（案）

本日、私たちは東京都「田町交通ビル」において、東日本ユニオンが掲げている「新型コロナウイルスに対するガイドライン（10）」を基に感染防止対策を講じながら「第9回中央委員会」を開催し、「JR労働者が働きがいを得るJR東日本と安心を得る社会をつくろう！」をメインスローガンに2022春闘をはじめ、当面する活動の展開について、中央委員、傍聴者の満場一致で確認した。

JR東日本は新型コロナウイルス感染症によって激変した社会環境のなかで、グループ経営ビジョン「変革2027」をスピードアップさせるために様々な施策の提案、実施を進めている。経営側が策定したグループ経営ビジョン「変革2027」が、真にグループ理念と行動指針に則り、お客さまのご期待に応え、地域社会と共存しながらグループの持続的成長を果たし、社員と家族の幸福を実現するビジョンとなっていくのか、東日本ユニオンは労働組合の立場から今後も経営側と継続して議論を重ねていく。

社員が「答え」ばかりを発言して「想い」や「本音」を語らない企業が発展した歴史、過去はあったのか。かつてトップダウン経営による「大企業病」で不正行為が横行した時代に、声をあげない労働組合が、その病化の一端を担っていたことを教訓化しなければならない。

1月31日に「2021年度第3四半期決算」が発表された。業績は収束を見せないコロナ禍での経営を余儀なくされ黒字化への道は厳しい状況にある。その現実の中で東日本ユニオンは今中央委員会で確認した2022春闘方針を高らかに掲げ全組合員で推し進めていく。

JR東日本の近年における賃金改訂の実績は、過去最高の業績を積み重ねていた一方、微増であり期末手当においては横ばいであった。2021年度の賃金改訂で経営側は、コロナ禍を主因として悪化した業績を前面に出し、会社発足以来、初めてとなる定期昇給の減率を回答した。これは社員の生涯賃金に大きく影響することであり、経営側の社員に対する「評価」に各地の職場から驚きや落胆の声が多く寄せられた。コロナ禍の影響を受けて厳しい環境におかれているのは経営状況だけではない。社員一人ひとりの生計費も同様である。さらに諸施策の実施や福利厚生の変更により、人生の将来設計を見出すことに悩んでいる社員が多くいる。生産性向上が実現している基礎には社員の存在があることを忘れてはならない。生産性向上と賃金が比例しないことを労働組合として認めることはできない。

東日本ユニオンは連帯するすべてのJR労働者と共に、正々堂々かつ理性的な取り組みをもって2022春闘の要求実現を勝ち取ろう！

第10回定期大会以降も新たな仲間が東日本ユニオンに加わっている。

さらに強化しよう団結の力を！さらに拡大しよう団結の絆を！

東日本ユニオンを明るく未来ある組織へと成長させていくことを通じて安心して退職まで働くことのできる会社をめざし全組合員で決起しよう！

以上、宣言する。

2022年2月9日
JR東日本労働組合
第9回中央委員会